

## 1. 【目的】

- ・砂川厚生福祉センターいぶき（以下「いぶき」）等において障がい特性に配慮した視覚化・構造化による支援（標準的支援）の実施を継続しても、強度行動障がいの状態の安定が見込めない事例をもとに、学識経験者や民間支援者による状態の分析と支援方法の検討を行い、標準的支援に加え、より高度で専門的なアセスメントや支援を包括的に実施する方策の検証と開発を行い、大阪府版強度行動障がい支援モデルをとりまとめ、強度行動障がい支援いぶきモデル（以下、「いぶきモデル」）とした。
- ・いぶきモデルについて、行動障がいにおける支援実績の豊富な法人に対する実践的な研修等を通して、支援手法を伝授。各法人の支援力の向上とともに、将来的に、各法人によって、地域で、支援が困難なケースへ効率的にSV（助言・指導等）を実施し、細やかな配慮を要する強度行動障がい者の地域生活を促進する。

## 2. 【事業内容】別紙2「年間スケジュール」を参照。

- ・いぶきモデルに関する研修及び、モデルを活用したコンサルテーションを実施。
- ・コンサルテーションには、支援実績の豊富な法人が支援するケースに対して、いぶきモデルの手法を活用した多職種SVによる助言を実施。
- ・なお、いぶきモデルには、専門性の高いフォーマルアセスメント等を活用した見立て、分析を行う必要があるため、併せて専門的な検査の実施や、見立ての助言を行う。

## 3. 【コンサルテーション並びに研修対象者等】

- ・行動障がいにおける支援実績の豊富な法人 3か所（公募）  
R8.4 市町村あて周知依頼送付、砂川厚生福祉センターホームページに掲載。
- ・標準的支援の実施を継続しても、強度行動障がいの状態の安定が見込めない者 等

### <応募条件>

- ・強度行動障がい支援者養成研修実践研修修了者が在籍していること
  - ・法人として、本事業の参画について理解があること
  - ・強度行動障がいの状態を示す方で、いぶきモデルアドバンス支援が必要と考える事例を支援していること
- 例：感覚過敏・鈍麻等の特異性、愛着上の課題・他者との関係構築の困難さ、周囲の環境刺激からの刺激性、睡眠等医療面での見立ての必要性、トラウマの再体験等過去の体験との関連性、等のうち1つ以上顕著な課題があると支援者が見立てており、標準的支援に加え、より専門性の高い支援の必要性がある。

### <提出資料>

様式1 事業所体制シート、様式2 基本情報（事例）シートを提出。

## 4. 【スーパーバイザー】いぶきモデル活用に関する専門性を有する者

- ・コンサルテーション総括…モデル普及、コンサルテーションについて助言。  
地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 副部長 平山 哲 氏
- ・ケース助言者…事例検討に関する助言。  
各コンサルテーションは3グループとし、SVの専門領域より支援への助言を行う。  
○公立大学法人大阪 大阪公立大学 教授 立山 清美 氏  
○学校法人 岩手医科大学 教授 八木 淳子 氏  
○社会福祉法人 北摂杉の子会 常務理事 平野 貴久 氏  
○国立大学法人 和歌山大学 教授 竹澤 大史 氏  
○地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪市母子医療センター 副部長 平山 哲